

鈴木一平

1. 事業実施の目的

クリスの考古学的研究のための資料調査

2. 実施場所

豊玉姫神社、ミュージアム知覧

3. 実施期日

2025 年 5 月 18 日（日）～ 2025 年 5 月 20 日（火）

4. 成果報告

●事業の概要

本事業は実施者の研究テーマである東南アジアの鍛造製鉄剣クリス（Keris）の年代研究に関連して、鹿児島県南九州市知覧町郡の豊玉姫神社に伝世したクリスの調査をおこなった。対象となった資料は「火焰型剣」の名で知られる社宝で、その由来については一切の情報がない。報告者は 2020 年に第一回調査を行っており、基礎データの取得と実測図の作成をした。今回の調査では、本資料に関するより細かいデータを取得するために、三次元計測のためのデジタル写真撮影（図 1）、ポータブル式蛍光 X 線（p-XRF）分析装置をもちいた元素分析（図 2）、を実施した。

調査初日（5/18）は 17 時ごろに鹿児島市中心部に到着し、19 時ごろから化学分析を担当する共同研究者と機材の確認・打ち合わせをおこなった。二日目（5/19）は 8 時に鹿児島市を出発し、9 時半ごろ豊玉姫神社へ到着、宮司と権禰宜に今回の調査についての事前説明をおこなった。その後 10 時よりミュージアム知覧にて対象資料の調査を開始、17 時すぎに博物館での活動が終了した。鹿児島市中心部の宿に戻ったのは 19 時半である。



図 1: 資料撮影の風景

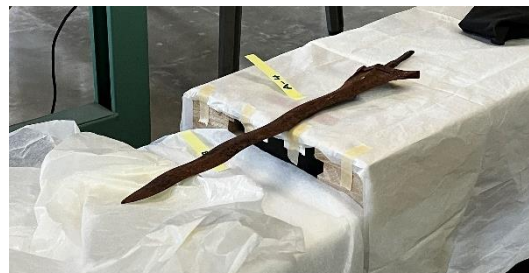


図 2: p-XRF 分析の風景

●本事業の実施によって得られた成果

本事業によって、以下の成果を得ることができた。

(1) 三次元計測のための撮影：本調査では、回転台を用いた資料の撮影を実施し、三次元計測に必要な画像計 1228 枚（剣身 698 枚、鞘 530 枚）を取得した。現在専用ソフトでデータの解析中であるが、精度の高い三次元計測ができる見込みである。

(2) 資料の成分分析：本調査では共同研究者の協力のもと p-XRF 分析装置による化学分析をおこなった。これにより対象資料の構成元素がある程度明らかになった。得られた結果は 16 世紀を境にクリスの使用原料と製作技法が大きく変化している可能性を示唆するもので、他資料のデータと比較しながら現在分析中である。

これらの成果は、詳細な分析ののち論文もしくは研究ノートにて報告し、また内容の一部は博士論文に反映させる予定である。

●本事業について

まず、調査を快く許可していただいた豊玉姫神社の宮司の A さん、権禰宜の A さんに心からお礼を申し上げます。そしてミュージアム知覧の皆さんには円滑な調査のために多くのご協力を賜りました。また共同研究者の I さんには遠方から調査に参加していただきました。ここでお礼を申し上げます。毎度のことながら、本事業による助成のおかげで、納得のいく形で調査の実施ができました。研究を前進させることができ嬉しく思います。本事業に関わる皆さまに感謝申し上げます。